一般社団法人　富山県理学療法士会

TPTA

会報 とやま

平成24年度

No. 4

（通算128号）

総会員数579名（休会57名）

全151施設

今号の内容

第17回富山県理学療法学術大会……2〜3
理事会報告……3〜4
地区連絡会だより ……5
研修会報告……6〜8
保健事業部トレーナー派遣事業のご紹介 ……9
患者友の会の紹介 第３弾 ……10〜11
リレーエッセイ……12
寄付金のお知らせ・事務局インフォメーション……13
平成24年度賛助会員名簿……13
広告案内・編集後記……14

トレーナー派遣事業で活躍する中村氏

（９Ｐに関連記事）

第17回富山県理学療法学術大会「理学療法の伝承」を振り返って

第17回富山県理学療法学術大会 大会長　酒　井　吉　仁

私たちが理学療法対象者の方々、家族、チームメイトに、最初の出会いで理学療法士として受け入れていただける、信頼して話を聞かせていただける、役割を与えていただけるのは、なぜでしょうか？○○病院のリハビリテーション部に勤務しているからでしょうか？それともリハビリテーション室で白衣を着用しているからでしょうか？

ある施設で初対面の入所者の方にいきなり手を噛まれたことがあります。私の手がおいしそうだったからではありません。変形拘縮の強いその方は、日常生活を介護される時に、体を動かされると痛い！ので、唯一の抵抗手段として自由に動く口で近くに伸びてきた手を"かっぷっ"と噛みます。観察していますと、無差別に噛むわけではなく、施設のユニホーム（ケーシーや白衣）を刺激として条件反射のように噛むということに気づきました。またときには、転院してきた患者の最初の面接で「理学療法」という言葉を出しただけで、「つらいし、痛いから、いやです・・・・」と拒否されたこともありました。決して私の人相や目つき、話し方が悪かったからではありません。これらのほとんどが、先行刺激である理学療法(士)が嫌悪刺激として作用しているケースです。逆に入学試験で、自身や家族が理学療法を受けた経験を持つ学生から「私もあの先生のような理学療法士になりたいと思ったから。」という志望動機を聞くことがあります。この学生やご家族にとって理学療法(士)は受け入れられた存在で、理学療法を行うといった行動を強化（動機づけ）する先行刺激となっていたわけです。

私たちが理学療法士として最初の出会いから相手に信頼され、役割と責任を与えていただけるのは、今まで理学療法士の先輩方が、社会や理学療法対象者に信頼される活動を行ってきてくれたからだと思います。そして今現在、理学療法を行っている皆さんの活動がこれからの先行刺激になることを自覚しておかなければいけません。

平成24年11月23日に第17回富山県理学療法学術大会を開催いたしました。富山県理学療法士会が一般社団法人となった平成24年度は、富山県理学療法士会設立40周年にもあたる記念すべき年度でした。富山県理学療法士会が、社会に貢献する職業団体として公に認めていただけたのは、先に述べたように、ひとえに今まで理学療法士として活動してこられた諸先輩方の働きがあったからこそです。これからの理学療法の発展を祈念して、この記念すべき年度の学会のテーマを「理学療法の伝承」といたしました。20世紀は科学の時代といわれ、医学・医療の世界の進歩は周知の通りです。理学療法士の活動の３本柱の一つである研究活動の成果を発表、討論し、理学療法の学術的発展を図るのが学会の場です。どんなに優れた理学療法技能を有していようとも、内向きに職場にこもり、一子相伝をよしとしているようでは、井の中の蛙、裸の王様です。そこに発展はありません。

本学会の基礎研究の発表では、理学療法のエビデンスを構築し、今までの理学療法の質と精度を高め、これからの理学療法の発展に寄与していく内容のものが多くみられました。また、

症例報告は数字や科学だけでは表せない臨床技能の伝承の機会でもあります。実演こそないものの、発表者と参加者とのやり取りの中に、両者の臨床での医療人としての姿勢、倫理観も垣間見ることができました。さらに、今回のチャレンジセッションの発表では、新人の理学療法士だけでなく学生さんにも発表の機会を設けました。初心者から熟練者までが理学療法について語り合うことは臨床教育そのものであり、その機会こそが理学療法の伝承であったと思います。

一般社団法人としての初めての学会でもあり、内向きの学術大会としてだけではなく、学術活動を通じて社会貢献を行う目的で、市民公開講座を学術大会ではじめて開催しました。富山県高志リハビリテーション病院院長の野村忠雄先生に「足腰きたえてニコニコ100歳～ロコモティブ・シンドロームにならないために～」をご講演いただきました。野村先生には運動実演を交えながら、リハビリテーションの理念をもとに、どのように元気に人生を謳歌していけばよいのかをご講演いただき、新聞にも取り上げていただくことができました。

本学会を通して、昔から変わらず今も理学療法士に求められることについて考える機会をいただきました。理学療法士には、目の前の対象者の方に真摯に理学療法を提供すること、臨床・研究・教育活動を通じて社会活動に寄与していくことが求められていると思います。理学療法士の一生懸命に取り組む後ろ姿を、これからその道をたどる後輩達だけでなく、社会の人々も見ていると思います。まだまだ理学療法は切磋琢磨されなければいけません。これからも、この先も、記録物のような書籍からではなく、それらの活動を通じて理学療法が伝承されていくのだと思います。－For　the　patient－

最後に、本学会にご後援いただいた皆様、参加して下さった皆様、企画・運営に携わって下さったスタッフの方々（特に準備委員長の徳田先生）に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成24年度 第５回
理 事 会 報 告

日　時：平成24年10月18日（木）
場　所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：島倉　川合　寺田　酒井　徳田
　　堀尾　森山　森田　柴田　池田
　　山口　滝田　　書記：亀山

＜報告事項＞

○事務局報告事項：事務局郵送物、会員移動状況、公印・公文書使用簿等の報告。

○40周年記念事業報告：9/23名鉄トヤマホテルにて開催され、延べ217名に参加頂いた。なお、会員より参加者を募り、10/21の『あいの風リレーマラソン（ハーフの部)』に出場した。

○医療保険部研修会報告：9/2開催。38名参加。

＜検討事項＞

１．北陸三県理学療法士役員会議について：今年度の事業計画、40周年記念事業などを報告することで承認された。

２．平成25年度富山市障害程度判定審査会委員候補者の推薦について：候補者を継続して審議する。

３．平成25年度富山市介護認定審査委員について：現行の11名から13名に増員の依頼あり検討された。現委員は継続し、増員２名については、継続して審議する。

4．県教育委員会県立学校課からのPT・OT専門巡回相談員についての依頼：県OT士会では地区ブロック代表者が相談員となっている。今年度は酒井理事が受諾。来年度以降は公益事業局へ依頼することで承認された。
5．平成25年度事業計画策定指針(案)について：公益法人への対応の検討(事務部、財務部、法人準備委員会)、富山県理学療法学術大会の運営、PT協会全国研修会誘致などの指針が報告され、承認された。
6．その他：各部会予算案を11月末までに事務局へ提出。拡大役員会は2/2に開催予定。

平成24年度 第6回
理 事 会 報 告

日　時：平成24年11月29日（木）
場　所：富山市民病院作業療法室
出席者：島倉　川合　寺田　酒井　徳田
堀尾　森山　柴田　池田　大野
滝田　　書記：有島

＜報告事項＞
○事務局報告（郵便物、会員移動等）：郵便物・会員移動等が報告された。
○40周年記念事業報告：記念式典および祝賀会の礼状発送済み。現在は記念誌の発行準備中である。
○標準理学療法研修会2報告（卒後教育部）：平成24年10月21日、滑川市民交流プラザにて『リスクマネジメント』をテーマに研修会開催。
○東海北陸ブロック生涯学習担当者会議報告：会員管理システムについて報告された。
○東海北陸ブロック協議会報告：次回愛知県大会より抄録はＡ４サイズとし、５年間継続となる。発表における動画の使用許可は担当地域での個別判断となる。また優秀賞発表は翌年とし、抄録における倫理規定も記載するように徹底することとなる。
○北陸三県理学療法士役員交流会報告：事業内容や財務業務・寄付金の規定等について報告。またこの会の名称を北陸三県理学療法士役員会とする。
○税制改正への対応について（財務部）：平成25年１月所得税に対して復興特別税が加算され当士会もその対象となることが報告された。
○理学療法士講習会について：平成24年11月18日に理学療法士講習会が開催。また会員管理システムのためにパソコンを３台購入した。

＜検討事項＞
1．教育局次年度計画案について：新人教育プログラムの複数のカリキュラムの合同開催とオリエンテーションの開催を１日で実施することが了承。
2．「みんなの理学療法」の依頼原稿料について：依頼原稿に対して一律20000円支払うことが認められ士会としても規約をつくることとなった。
3．協会職能局主催「提案型管理者育成を目指したワークショップ」の推薦者２名について：職能局で検討する。
4．平成25年度事業計画策定指針(案)について：修正案が提示された。
5．次回富山県学術大会長について：再度正式に依頼することとなった。
6．第20回介護予防研究会における単位認定について：当士会では十分な管理ができないために単位認定はしないこととする。
7．県からの依頼について（福祉事業部）：県からの依頼に対応できない場合があるため各ブロックで担当を考えるなど再度検討することとなった。

地区連絡会だより

高岡地区

『脳の画像診断と機能局在』

平成24年９月25日(火)に、厚生連高岡病院リハビリテーションセンターで高岡地区連絡会の研修会を行いました。厚生連高岡病院脳神経外科診療部長の小出謙一郎先生を講師にお招きし、『脳の画像診断と機能局在』をテーマにご講義をして頂きました。参加者は、高岡地区内外から48名でした。

脳卒中は、理学療法士にとって、最も携わることの多い疾患の一つです。今回の研修では、画像の見方は勿論、注意が必要な脳卒中の病態まで、丁寧に解説して頂きました。翌日から、すぐに臨床に生かせる有意義な研修会になったと思います。

研修会風景

『脳卒中の理学療法～実技も交えて～』

平成25年２月12日(土)に、山田温泉病院リハビリテーション科の仲川仁先生を講師にお招きし、『脳卒中の理学療法‐実技も交えて‐』をテーマに実技を交えてご講義をして頂きました。参加者は、高岡地区内外から33名でした。

実演する仲川先生

今回は初めて、研修時間を通常より長くとり、実技を交えた研修会としてみました。仲川先生には、脳卒中の理学療法を展開するうえでの戦略の立て方、分析の仕方などを分かりやすくお教え頂きました。また実技では、基本動作の介助方法を教えて頂きました。これからの高岡地区連絡の研修では、実技研修会も増やしていきたいと思います。

『公益事業活動報告』

平成24年10月29日(月)、氷見市の社会福祉法人『萬葉の杜福祉会』の職員研修会に講師を派遣しました。『腰痛予防に留意した移乗方法』と題し、理学療法士ならではの解剖学・運動学に基づいた移乗方法をレクチャーしました。

参加された介護職員の方々から、日々の疑問点・改善方法など細かく質問して頂き、まさに熱気に圧倒されそうな、熱い研修会となりました。

我々、理学療法士は、リハビリテーションに関係する他職種と広く、密接に連携していく必要があります。今後もこの様な活動を通じ、地域リハビリテーションに関わる全ての職種との『顔の見える関係』作りを進めていきたいと思います。

富山南部地区

平成24年12月４日に八尾総合病院にて第２回富山南部地区連絡会が開催されました。今回は「エモーショナルリハビリテーション」と題して富山大学医学薬学部の浦川将先生に講演して頂きました。参加者数は38名と多くの先生方に参加していただきました。

エモーションとは情動ということで、人が行動する上ではなくてはならないものであり、リハビリを行う上でもうまく情動に働きかけることでパフォーマンスが向上するということを先生の研究を踏まえながら講演して頂きました。脳科学という難しい内容をわかりやすく説明され、非常に有意義な講演会でした。

研　修　会　報　告

平成23・24年富山県訪問リハビリテーション研修会 step3

森田　慎也

平成24年12月１日(土)、12月２日(日) の２日間にわたり平成23・24年富山県訪問リハビリテーション研修会 step３が富山医療福祉専門学校で開催されました。

１日目の前半は山中温泉医療センターの外科センター長：大村健二先生よりリハビリテーションと栄養についてご講義をいただき、後半はケアマネジメントについてふれあいステーションあざみの施設長：生駒裕子先生から講義をいただきました。

大村　健二 先生

生駒　裕子 先生

２日目は訪問リハビリテーションに必要な連携をテーマにワークショップが開かれ、連携すべき他職種やその方法について他の参加者と共通理解を深めています。テーマに沿った内容のみでなく、日頃の業務で悩んでいる事や他の参加者がどのように訪問リハビリテーションに携わっているか意見交換も行えました。また、滑川消防署員の方を講師に一次救命処置に実技を学ぶ事ができました。

２年がかりで開催された研修会は今回ひと区切りとなり、３回すべての研修を受講した参加者には修了証を配布しています。今後は修了者を対象としてよりステップアップした研修会の開催も検討しつつ、来年６月には次年度の研修会を予定しており、訪問リハの経験を問わず参加をお待ちしています。

人形を使って心配蘇生法の実技

ワークショップ

救命救急法の受講

平成24年度理学療法士講習会 基本編・理論
呼吸・循環セミナー「チーム医療に参画するための基礎知識」

市立砺波総合病院　**碓井　孝治**

平成24年11月18日、サンシップとやまにおいて平成24年度理学療法士講習会 呼吸・循環セミナー「チーム医療に参画するための基礎知識」が開催されました。参加者は計61名で、遠くは秋田や島根からも参加されていました。講師は内部障害研究会のメンバーに加え、富山県立中央病院麻酔科副医長の小宮良輔先生、市立砺波総合病院看護部の水上由紀先生をお招きして、主に急性期における呼吸と循環に関して、チーム医療を行う上での幅広い捉え方について学びました。各先生方の講演内容については割愛しますが、仕事・患者さんに向き合う姿勢や熱心さを強く感じましたし、教科書には載っていない解釈の方法、すなわち「教科書の知識＋実際の患者さん＝今どういう病態にあって、どうアプローチすべきか」を理解するのに非常に役立つ有用な講習会だったと思います。私自身も内部障害研究会のメンバーではありますが、今回は受講生として参加させていただきました。当然、呼吸・循環に関する評価・アプローチについても改めて学びましたが、それよりも「チーム医療」という観点から私個人が印象に残った言葉・表現をいくつかご紹介したいと思います。

○コミュニケーション力…かつて「病棟へふわっと現われ、いつの間にか去っていくPTがいる」と言った看護師がいました。確かに、医師・看護師をはじめ、他職種と話し合ってこそチーム医療が展開できることは言うまでもありませんから、しっかりコミュニケーションをとっていくことが先決です。

○空気/風/雲行きを読む…講習会に参加された方はわかると思いますが、私こそかつてはスクイージングにはまり、また離床が大好きなPTの一人です。それらが悪いとは思いませんが、何事においてもしっかりとしたアセスメント、今後の動向を予測して理学療法を進めていくことが大事です。（でも未だに離床を優先して看護師に叱られることもあるんですけどね。）

○協働…とある辞書によると、「協働」とは"同じ目的のために対等の立場で協力して共に働くこと"だそうです。ちょっと奥深い言葉ですよね。臨床検査、放射線、薬物療法、看護、理学療法等、手段や方法、職種は違っても、同じ目的のために対等の立場で協力して共に働く―これこそチームに求められる姿なのかもしれません。

私がまだ新人の頃、こう言った先輩がいました。「急性期をみるなら慢性期を学べ、慢性期をみるなら急性期を学べ」―最初は何言ってんだ、この人は？と思いましたが、よくよく聞くと、"急性期では急性期のことを勉強するのは当たり前。慢性期になってどんなことが問われるか、何が必要になってくるかを見据えて幅広く勉強しないと意味がない"とのことでした。

なるほど、と思いました。また「慢性期でバイタルサインを測る意義ってわかる？急性期じゃ病状が変わりやすいからこまめに測るでしょ !?　慢性期ではいつもと違う状態を発見した時にどう対処するかが問われるの。だから必要なの。」と言った看護師もいました。

そう考えると、慢性期や維持期、老健施設、訪問等に勤務するPTの方々も急性期の知識を持っておくことは有用ですよね（当然、その逆パターンもです）。本講習会は来年度も開催予定ですので、是非出席していただくときっと何かに役立つことと思います。今までの自分に1つでも2つでも有用な情報を得て、臨床で生かしていただければと内部障害研究会メンバー一同、願っております。

最後になりましたが、内部障害研究会（特に呼吸班）では新たなメンバーを大々的に募集しています。興味のある方、我こそはと思う方は是非お近くのメンバー、もしくは当研究会代表・富山労災病院の山本伸治先生までご連絡ください。お待ちしています！

健康増進に関する小研修会に参加して

矢野神経内科医院　**寺家　千春**

平成24年12月22日、富山県立中央病院にて庄川健康プラザ、土田祐次先生による「介護予防について－砺波市の運動機能向上事業の取り組み－」の研修会がありました。

地域支援事業の一つとしての通所型介護予防事業であり、その通所事業のなかの運動器機能向上事業であることを今回詳しく知りました。私は、通所リハビリに勤めていますが要介護・要支援状態になりようやく運動の必要性を考える方が大半で、そうなられた方であっても予防（さらに悪化しない為）の観点を定着していただける方は多くありません。

今後の高齢化社会に対応して、特定検診や生活機能評価・運動機能向上事業での情報等が、地域のかかりつけ医や地域包括センターの方々を通じて相互にわたって連携活用されるネットワーク作りが必要だと思いました。

土田　祐次 先生

一般社団法人 富山県理学療法士会

保健事業部トレーナー派遣事業のご紹介

厚生連高岡病院　中　村　拓　人

ご存じの方も多いかと存じますが、本年度の全国高校総体が北信越地区を会場に開催されました。本県では４競技が開催され、このなかの男女バレーボール競技に富山県士会よりテーピングサポートサービスとしてトレーナーを派遣しました。このトレーナー派遣事業は、2000年とやま国体以来、約12年ぶりの事業再開となります。

今回のトレーナー派遣事業は、平成24年度高校総体で事業を休止するのでなく、来年度も継続することが決定しました。平成25年度の具体的事業案としては、県内の高校バレーボールの大会への派遣継続、また富山県士会の悲願であった、高校野球への派遣を開始することも内定しました。

スポーツ分野の活動に興味を持つ理学療法士は少なくないと思われます。しかし日常の業務として、スポーツに携わることが出来る理学療法士はほんの一握りといわざるを得ません。よって理学療法士がライフワークとしてスポーツ現場に関わることのできる機会を設けることが必要と思われ、保健事業部では、このトレーナー派遣事業がその１つとして発展していくように努力してまいります。また富山県理学療法士会、富山県の理学療法士が、社会に貢献できる場所としても、トレーナー派遣事業を継続していきたいと考えています。

スポーツ分野の理学療法に興味がある方、スポーツや理学療法に熱い情熱を持った方、是非お力をお貸し下さい。一緒に富山県士会、富山県のスポーツ界を盛り上げていきましょう！

患者友の会の紹介 第３弾

パーキンソン病とリハビリ

全国パーキンソン病友の会富山県支部　木　島　律　子

富山県に「パーキンソン病友の会」をという声が上がったのが2002年の秋、当時は今程情報が潤沢ではなく、わかるのは難病であり、進行性であり、いずれは寝たきりになってしまう・・・ということぐらい。病名を告げられた誰もが暗闇に置き去りにされたような不安を抱えていました。

悩み、不安の受け皿に
20日 県パーキンソン病友の会 設立

友の会設立記事

そんな患者や介護者が声を掛け合い、県内の神経内科医や医薬品メーカーの協力のもとに12月にはパーキンソン病医療講演が行われ、翌年４月に「富山県パーキンソン病友の会」が立ち上がりました。設立準備委員の中には神経内科の先生方とともに、地域リハビリ支援室タムラ　代表の田村茂先生の顔もありました。田村先生は結成前から現在に至るまで様々な形で支援してくださる、力強い協力者の一人です。

2008年には全国組織に加入して「全国パーキンソン病友の会富山県支部」となり、現在全国の会員は約8000名、富山県支部は約145名で活動をしております。

友の会会報

昨年は第10回の総会を迎えました。ホテルでのちょっと贅沢な総会と交流会、医療講演に落語寄せ、記念誌「10年のあゆみ」の編纂など多くの人々のお力添えで節目の記念行事を果たすことができました。

パーキンソン病は病歴が長くなると出かけづらくなります。しかし、外へ出て楽しむこと自体がリハビリになりますし、ドーパミンを放出します。記念総会もそうですが、当会は患者に出かけてもらうために年間を通して様々な仕掛けをしています。

10周年記念パーティー（H24）

年間を通して、一番大きなイベントは一泊の温泉旅行です。患者・家族にのびのびと大きな温泉に体を浸からせてあげたいとの思いから始めた企画ですが、回を重ねるごとに温泉選びや観光、入浴ボランティアの充実（残念ながら男性ボランティアは不足してますが）など力が入ってきました。

飛騨高山や糸魚川、五箇山など様々なところへ出かけましたが、なかでも感動的だったのは立山の室堂平でした。

立山室堂へ一泊旅行（H23）

一昨年、記念総会のプレイベントとして行った温泉旅行です。

初日は立山国際ホテルで医療講演、リハビリ講習に音楽療法と患者磨きをし、夜の懇親会は八尾のおわらで最高に盛り上がり、興奮冷めやらぬまま二日目はバスで標高2500m室堂まで。ボランティアさんたちの見事な介助ぶりで車椅子の人も歩行器の人も高原を散策。車椅子を押してみくりが池付近まで山道を歩く様子は北日本新聞にも紹介されました。「一度登ってみたかった。」という人、「元気なときに何度も来ていたけれど病気でもう２度と来られないと思っていた。」と涙ぐむ人。「あきらめない」の言葉を噛み締めながら眺めた立山連邦の勇姿でした。患者会活動の醍醐味です。

白川郷へ一泊旅行（H24）

地域ごとの活動も盛んです。富山市とその周辺地区、呉西、呉東と大まかに分かれ、あるいは入り混じり、さらに小さな集まりなど、線引きはないけれどなるべく出かけやすいように、また少人数の顔見知り同志で話がしやすいようにと地区担当者が企画運営をします。それはリハビリやお灸などの講習であったり、温泉やカラオケ、単なるおしゃべり会まで多岐にわたります。

なかでも高岡市の畠リハビリジムは、現相談役の畠勲児さんが自宅をリフォームして開放、約25名のパーキンソン病患者がリハビリを行っています。週３回、午前中は全員でヨガを中心としたリハビリ体操、午後は詩吟・ハモニカ・ハンドベル・手芸・パソコンなど思い思いのグループで楽しみながらのリハビリに励みます。指導者は仲間同志や、専門家のボランティアであったりします。かつてNHKの全国放送で特集を組み大きな反響がありました。

初釜やお食事会、花見にりんご刈り、カラオケに温泉など年間行事も多彩です。

パーキンソン病友の会富山県支部は、活動を通し仲間同志で理解をし、病を笑い飛ばし、勇気をもらう場でありたいと願っています。進行により外出がままならなくなった人たちにも情報提供や、交流会の様子の寄稿などで一緒に楽しんでいただけたらと年５回の会報を発行しています。会に出て、あるいは会報を読んで「元気が出た」と言ってもらえることが励みです。

今、パーキンソン病にリハビリの重要性が声高に言われています。運動機能が損なわれるのではなく、神経の伝達がうまくいかないための機能後退であるのに、動かせないイコール動かないとの思い込み（患者も家族も社会も）で進行を早めている人が結構多いように感じます。

iPS細胞の再生医療も、新薬の開発も輝かしい未来なのですが、今日を生きる患者にはリハビリによって進行を少しでも遅らせることが大切です。理学療法士の皆様の力に期待しています。

リレーエッセイ

『another sky』

八尾総合病院　野　上　静　恵

流杉病院の井上先生から『another sky』というテーマをいただきました。『another sky』とはテレビ番組のタイトルで、毎回ゲストを一人招き、ゲストの「海外にある第２の故郷」や「憧れの地」を紹介する番組です。私自身この場で語れるほどの海外での旅行や生活の経験がないので、理学療法士の立場からの『another sky』について書かせていただこうと思います。

私は日々の臨床の合間に講習会や学会に参加させていただくことがあります。そのほとんどは理学療法士を対象にしたものですが、他職種対象の学会等にも時々参加させていただきます。学会となるとその世界のスペシャリスト達が集うので、より専門的でレベルが高い内容なのは当たり前ですが、プレゼンテーションの仕方や学会の緊迫した空気を感じるだけでもとても勉強になります。また発表後の質疑応答は、より専門的な質問やアドバイスが飛び交うので発表内容以上に勉強になることも多くあります。何よりも凄いのは参加者の情熱です。今年度参加させていただいた学会のシンポジウムでは、質疑応答が盛り上がり過ぎて２時間近くも延長し、会場の閉館時間まで続きました。その道を極めたスペシャリスト達の討論は、一旦白熱すると最新のトピックスから臨床的な話まで論文には書かれていないような本音が飛び交い、すごく刺激を受けました。またそのような場でも他職種と肩を並べて活躍する理学療法士を見ることがありますが、これもまた刺激を受けます。

理学療法士同士で集まる研修会も多くのものを与えてくれますが、少し違う世界へ足を運んでみるのも得られるものはたくさんあるように思います。これからもいろいろな場所へ足を運び、たくさんの刺激を受けながら日々の臨床の活力にしていきたいと思います。余力が出来たらいつか皆さんに紹介できるような素敵な海外旅行もしてみたいです。

寄付金のお知らせ

この度、福江明先生（いきいきサポートセンターゆめ）より５万円、藤井和子先生（休会中）より２万円の寄付を頂きました。大先輩のお二人の先生からは、士会の発展を祈念してとのお言葉を頂戴いたしました。ここに厚く御礼申し上げます。

事務局インフォメーション

○　平成24年４月１日より、日本理学療法士協会にて包括的会員管理システムが導入されました。それに伴い、当士会でも「異動」「休会」「復会」「入会」「退会」の手続きを、**全てＷｅｂ上で受け付けております。**用紙での諸手続きは受付けておりませんので、日本理学療法士会のホームページより諸手続きをお願いいたします。

○　なお、当士会で登録していた内容と、協会に登録されている内容が、異なる会員が少なからず確認されております。今一度、日本理学療法士会のホームページよりログインして頂き、ご自身の会員データのご確認の上、適時ご修正をお願いいたします。

○　職場で会員のご結婚の予定がおわかりでしたら、事務局へご一報願います。事務局より祝電にて祝福させていただきます。

編集後記

- 今年こそと思ってもう何年も経ちますが、本当に今年こそ新人研修プログラムを終了させたいと思っております。(南)
- 暖かい春が待ち遠しいけれど、花粉症の私にはツライ季節です。(福島)
- 仕事帰りに市民プールでガシガシ泳ぐ事が、最近のストレス発散です。みなさん体動かしていますか～？（高野）
- 早く春よ来い。年とともに暖かい春が待ち遠しいです。東北震災被災地にも本当の春が到来してほしい。（田村）
- 皆さん原稿依頼快く引き受けて下さり、大変助かります。今後もよろしくお願いいたします。（坂田）
- 平成24年度は県士会にとって東海北陸学会や40周年記念式など大きな行事があり、会報やHPで会員の皆様に情報をお伝えしてきました。来年度も大きなことから小さなことまで出来る限りいろいろな情報を発信していきますのでご協力のほどよろしくお願いします。（笹川）

2013．3．21
一般社団法人　富山県理学療法士会
〒936-0023 富山県滑川市柳原149-9
富山医療福祉専門学校
理学療法学科 内
☎(076) 476－1716
発行人：島　倉　　聡
編　集：笹　川　　尚
印　刷：志　貴　野　苑
士会ＵＲＬ:http://toyamapt.umin.ne.jp/
事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp